

建 築 工 事 施 工 計 画 報 告 書

建築基準法第12条第5項の規定に基づき、下記のとおり建築工事施工計画を報告します。
この報告書及び添付図書に記載の事項は、事実と相違ありません。

年 月 日

杉並区長 宛

代表となる工事監理者 住 所 電話 ()
会社名 ()級建築士事務所()登録第()号
氏 名 ()級 建 築 士()登録第()号

工事施工者 住 所 電話 ()
会社名 建設業の許可 大臣・知事 第()号
氏 名

(法人にあつては、その事務所の所在地、名称及び代表者の氏名)

品質窓口責任者氏名 電話 ()

記

(1) 工事現場	名 称		工区棟	工事の種類	新築・増築・改築	
	所在地					
(2) 構造設計者	氏名		所属会社		電話 ()	
(3) 現場代理人(所長)	氏名		現場事務所		電話 ()	
(4) 階数	地上 階・地下 階 塔屋 階	(5) 建築面積	m ²	(6) 延べ面積	m ²	
(7) 構造	木造・S造・RC造・WRC造・SRC造・混構造(造＋ 造)・その他()					
(8) 高さ	軒高 m 最高 m	(9) 確認済証交付機関				
(10) 確認・計画通知、年月日及び番号		年 月 日 第 号				
(11) 計画変更年月日及び番号		年 月 日 第 号 年 月 日 第 号				
(12) 構造計算の方法		(X) ルート()、(Y) ルート()、その他()				
(13) 構造(階ごと)	RC造・WRC造	階から 階まで	(14) 使用部位	PCa・HPCa		
	SRC造	階から 階まで		PC		
	S造	階から 階まで		CFT		
		階から 階まで				
(15) 認定材料	コンクリート				※ 受 付 欄	
	鋼 材 等					
	免震・制振部材					
	そ の 他					

(注意) 1 ※印のある欄は、記入しないでください。
2 代表となる工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容と確認済証及び設計図書等が整合しているか十分確認して記入してください。

鉄筋工事及びコンクリート施工計画報告書													
コンクリート使用材料及び施工													
基礎の種類		☐ 直接基礎 { ☐ ベタ基礎 ☐ 布基礎 ☐ 独立基礎 } ☐ くい基礎 { ☐ 場所打ち鉄筋コンクリート杭 ☐ 既製杭 (PHC杭、SC杭、鋼管杭、その他 ()) }											
コンクリート確認項目	施工	使用工法			基準	☐ JASS5(年版) ☐ その他()							
		使用部位	杭	基礎	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階			
		設計基準強度											
		打設方法											
		使用工法						軽量()種	モルタル	グラウト			
		使用部位	階～階	階～階	階～階	階～階	階～階						
		設計基準強度											
		打設方法											
	試験・検査計画	品質管理責任者 氏名					工事監理者 又は係員氏名		常駐 非常駐				
		検査担当者(工事施工者) 氏名											
		検査項目	打込前	☐ 試練 ☐ 散水 ☐ 配筋 ☐ かぶり厚さ						常・非			
			打込中	☐ テストピース採取 ☐ 打込速度・順序 ☐ 締固め						常・非			
			打込後	☐ 養生方法 ☐ 養生温度 ☐ 打込欠陥						常・非			
		エア・スランプ試験等の代行業者名				登録番号 採 号							
		供試体の養生場所・管理者											
		構造体コンクリート試験機関名				Fc36N/mm ² 以下の場合 Fc36N/mm ² 超の場合				都登録第 号 都登録第 号			
	鉄筋使用材料及び施工												
	使用鉄筋	種別	SD295		SD345		SD390		SD490		その他()		
		使用径	D ～D	D ～D	D ～D	D ～D	D ～D	D ～D	D ～D	D ～D			
	鉄筋確認項目	施工	継手種類		圧接継手		機械式継手		溶接継手		重ね継手(その他)		
使用箇所													
継手工法名(溶接材料)													
継手施工会社(優良圧接業者)													
			A級	その他	SA, A級	その他	A級	その他					
技量確認・施工前試験													
冷間直角カッターの使用													
試験・検査計画		外観検査(%)											
		引張試験(箇所/ロット)											
		超音波探傷・測定検査(箇所/ロット又は%)											
		引張試験併用											
		引張試験機関名								都登録第 号			
		非破壊検査機関名								都登録第 号			
外観検査実施者				工事監理者・工事施工者/検査機関 検査者		検査者 資格		都登録第 号					
鉄筋コンクリート工事 重点管理項目													

鉄 骨 工 事 施 工 計 画 報 告 書													
工 事 名 称							建築工事施工 計画報告書		年 月 日 第 号				
鉄 骨 加 工 工 場	名 称												
	所 在 地								代表者氏名				
	大 臣 認 定		認定番号				グレード				認定年月日 有効期限		
使 用 鋼 材	鋼 材 種 別 (最大板厚) (mm)		柱				梁				その他		
			SS ()				SS ()				ダイアフラム		
			SN ()				SN ()				()		
			STKR ()				その他 () ()				ベースプレート ()		
接 合 部 の 概 要	主 要 部 材 形 状	柱	☐ 鋼管 (角形、円形) ☐ H形鋼 ☐ その他 ()		柱 梁 の 接 合 方 式	☐ ブラケットタイプ ☐ ノンブラケットタイプ				柱 脚 形 式	☐ 埋込柱脚 ☐ 根巻き柱脚 ☐ 露出柱脚		
		梁	☐ H形鋼 ☐ その他			☐ 通しダイアフラム ☐ 柱通し (内・外ダイアフラム) ☐ 梁通し ☐ その他 (大臣認定等)							
	部 位 別 接 合 方 法		部位	鋼材				接合方法					
			柱－柱	() － () () － ()				☐ 溶接接合 (☐ 工場 ☐ 現場) ☐ 高力ボルト接合 (☐ 摩擦 ☐ 引張)					
			柱－梁	() － () () － ()				☐ 溶接接合 (☐ 工場 ☐ 現場) ☐ 高力ボルト接合 (☐ 摩擦 ☐ 引張)					
			梁－梁	() － () () － ()				☐ 溶接接合 (☐ 工場 ☐ 現場) ☐ 高力ボルト接合 (☐ 摩擦 ☐ 引張)					

(注意) 1 工事監理者及び工事施工者は、本報告書の記載内容が設計図書等と整合しているか十分確認して記入すること。
2 鉄骨加工工場を複数使用する場合は、工場ごとに作成すること

溶 接 工 事										
工場溶接（完全溶込み溶接部）					工事現場溶接（完全溶込み溶接部）					
☐ 被覆アーク溶接 ☐ ガスシールドアーク溶接 ☐ サブマージアーク溶接 ☐ その他()					☐ 被覆アーク溶接 ☐ ガスシールドアーク溶接 ☐ サブマージアーク溶接 ☐ その他()					
鋼材の切断の方法										
開 先 の 形 状		別添図 のとおり			開先の仕上方法					
エンドタブの種類と 主な使用部位		☐ 鋼製タブ								
		☐ フラックスタブ（セラミックス フラックス）								
種 類	使用部位	鋼 種	最大板厚	種別	溶接材料等	作業姿勢				
工 場 溶 接	完全溶込み			mm			F V H O			
							F V H O			
							F V H O			
							F V H O			
	すみ肉						F V H O			
							F V H O			
溶 接 管 理 技 術 者		所属		氏名		資格				
溶 接 検 査 責 任 者		所属		氏名		資格				
受入検査	検 査 機 関 名				都登録 CIW	第 番号	号			
	検 査 員	氏名 資格								
	検 査 率	☐ 外観検査 % ☐ 超音波探傷検査 % ☐ 内質検査 %								
	検 査 内 容									
種 類	使用部位	鋼 種	最大板厚	種別	溶接材料等	作業姿勢				
工 事 現 場 溶 接	完全溶込み			mm			F V H O			
							F V H O			
							F V H O			
							F V H O			
	すみ肉						F V H O			
							F V H O			
溶 接 管 理 技 術 者		所属		氏名		資格				
受入検査	検 査 機 関 名				都登録 CIW	第 番号	号			
	検 査 員	氏名 資格								
	検 査 率	☐ 外観検査 % ☐ 超音波探傷検査 % ☐ 内質検査 %								
	検 査 内 容									
重点管理内容										

